2024 年　1 月　13 日　提出

2023 年度　高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高　等　学　院　長
高等学院同窓会理事長　殿

研究代表者氏名［　西野亮祐　］

学年・組・番号［　2　年　I　組　11　番］

研 究 課 題：　戦前の対馬要塞の歴史と砲台の現状調査

（英文）　A research on the history of the Tsushima fortress in the prewar period and the current state of the remains of batteries

研 究 概 要 ：

（研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください）

対馬は朝鮮半島と九州の間に位置する国境の島である。近代以降は東京湾に次いで全国で 2 番目に砲台の建設が始まり、戦争末期まで 3 期に分けて 31 の砲台が建設され、対馬要塞と呼ばれた。現在でもほとんどの砲台跡が残されているが、その多くは放置され保存は進んでいない。そこで、対馬要塞の保存の課題について明らかにしようと考えた。しかし、文化財として保存するためには学術的価値を認められることが必要だが、対馬要塞の歴史的展開について書かれた文献は少ない。そこで本研究では、まず対馬要塞の歴史的展開について整理した。夏期には対馬を訪れて、砲台の現状調査や対馬要塞の保存・活用の現状や課題について対馬観光物産協会での聞き取りを行った。その後、対馬要塞の保存・活用の課題について考察を行い、これを明らかにした。

研 究 成 果 ：

（研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください）

対馬要塞が選定された理由は海防局のいずれの資料でも明確に説明されていない。そこで、対馬要塞が建設された理由について、明治期の対馬要塞の特徴や目的、当時の権力者の考えについて調査を行い、壬午の乱や巨文島事件を始めとした情勢変化や清・英・露をめぐる軍事的衝突への対応のため、海軍港の竹敷及び浅茅湾の防衛の重要性が認識されて建設されたことを明らかにした。次に、対馬要塞の砲台跡の保存や活用の現状について調査し、資金や人手不足の解消に加えて、整備と保存をどう両立させるかが問題となることが分かった。現状では対馬要塞の歴史を簡単に知れるような仕組みはなく、この課題を解決するためには、まずは対馬要塞の歴史を多くの人々が知れるような仕組みが必要であることが分かった。

研　究　者：（以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する）

研究代表者　2 年 I 組　西野亮祐

研究分担者　1 年 D 組　本間義隆

担当教諭　柿沼亮介　（受給額：　30000　円）

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します

（次のページに続きます）

研究成果写真 ：

（研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください）

以上